

プリズム

特別号

PRIZM 2025 / 12

渋谷区手をつなぐ親の会
〒151-0071 渋谷区本町2-9-17
ケアステーション本町内
TEL&FAX : 03 (3375) 0333
oyanokaishibu8@gmail.com
https://oyanokai-shibuya.com

創立 70 周年記念



第 10 回全国手をつなぐ育成会連合会
全国大会 東京大会 / 本人大会
併催：第 59 回手をつなぐ育成会関東甲信越大会
2025.11.8 (土) 11.9 (日) — 参加報告 —

令和7年度
全国手をつなぐ事業所協議会
全国研修大会

ともに生きる社会を目指して

育成会の全国大会が14年ぶりに東京に戻ってきました。3月11日に東日本大震災に見舞われ、前年秋に開催された福島大会で出会った方々に思いを馳せていた14年前が思い出されます。

今大会のテーマ「ともに生きる社会を目指して」は、どんな時でも、誰もがお互いを認め合い、支え合い、その人らしく暮らすことのできる社会の実現を願う私たちの歩み、そのものと思います。

長い歩みの中で変化してきたことはたくさんありますが、人のあたたかさ、優しさや人と人のつながりが、人や地域を育てていくことは、変わらないのだと思います。様々な切り口から学び、感じる事ができた大会でした。参加した会員さんたちの声から何かを感じていただけたら幸いです。



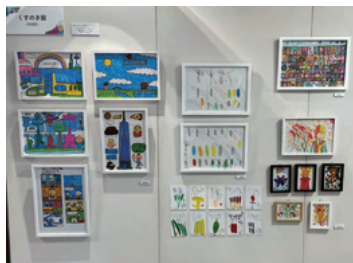
渋谷区手をつなぐ親の会
会長 堀口 智子



▲大会 HP



▲東京都
手をつなぐ育成会



▲映画
『日日芸術』
公式サイト

11.8(土) 育成会大会

13:00 ~ 16:00

第1分科会

子育て中の現在(いま)だからこそ知りたい!
子どもと親の未来のために…

1-1: 講演会

あらためて知る 子どもの知的障害・発達障害

1-2: シンポジウム

これからのインクルーシブ教育への期待を語る

1-3: ワークショップ

ペアレント・トレーニング はじめの一歩

第2分科会

自分らしく地域で豊かに暮らす

自分らしく、あたりまえの暮らしをするために

第3分科会

シニア世代の暮らし方へ健やかな高齢期を目指して～
知的・発達障害者のライフステージと生きがいづくり
～将来を見据えた支援を考える～

第4分科会

権利擁護～自分らしく生きる～

大切な人の“いとなみ”を支える実践

第5分科会

育成会活動

育成会活動の現状と親の会の新時代
～みんなが元気になる秘訣～



日本工学院専門学校(蒲田キャンパス)・カムカム新蒲田

第1分科会・1-1: 講演会

あらためて知る 子どもの知的障害・発達障害

「できること」を目指すとしじれやすい。目標は「やりたく
なること」を増やし、「達成」より「挑戦」。全ての活動は、そ
の活動自体に「快」がなければならない。仕事に見えても
「遊び」でなければならない。大人になった時の生活の質
の向上を目指すために、今からでも楽しいことに親子で
「挑戦」し、「遊び」(退屈しのぎ)のレポーターを増やした
いと思いました。(村上 春奈)

第1分科会・1-2: シンポジウム

これからのインクルーシブ教育への期待を語る

日本のインクルーシブ教育は特別支援学校や支援学
級が増加する中、「交流及び共同学習」が分離された環
境と共に学ぶ場をつなぐ重要な役割を担っています。子ど
もたちが学び合い、相互理解と人間性を育むことを目指
す一方で、教員の負担や仕組みづくりの課題もあります。

分科会では、小中学校の支援学級で学んだ高校生の
本人発表から、互いに認め合い支え合う大切さを実感し
ました。子どもたちが有意義な学校生活を送れるよう、
共に考えていきたいと思えます。(道井 美樹)

第1分科会・1-3: ワークショップ

ペアレント・トレーニング はじめの一歩

井上雅彦先生の講義を受けました。「自閉症スペクトラ
ム障害とは」から始まり、家族支援の重要性、ペアレント・ト
レーニングについてのお話の後、より良いほめ方や子ども
を認める方法など、4～5人のグループでワークを通して
支援、かわり方を学ぶことができました。また、ほめるこ
との大切さ、感覚過敏やこだわりにも折り合いをつけなが
ら向き合っていくなど、興味深くとても勉強になり、有意義
な時間となりました。(角張 宣子)

第2分科会: 講演会 / シンポジウム

自分らしく、あたりまえの暮らしをするために

200名を超える参加者が、各地域からの実践報告を熱
心に聴講しました。中でも印象的だったのは、障がい当事者
の辻浩一郎氏による結婚生活の報告です。「子育てを頑張
る先輩夫婦」に憧れつつも、思い通りにならない結婚生活
に苦悩する辻さんでしたが、発表の最後には「結婚して本当
に良かった」と心境を語りました。モデレーターの加藤潔氏
が「辻さん夫妻に憧れる人たちがこれから現れる」と会を締
めくると、会場は大きな感動に包まれました。(松本 千晶)

第3分科会: シンポジウム

知的・発達障害者のライフステージと生きがいづくり
～将来を見据えた支援を考える～

シニア世代の暮らし方をテーマに、障がい者が高齢期
を健やかに迎えるための支援や準備を、事例を交えて講
演いただきました。健康や心身面の変化に早期に気づく
こと、本人の思いや意思を確認すること、社会とのつなが
りを継続することなどを通じて、本人が様々な経験を積ん
で将来の選択肢を広げていけるよう、家族が元気なうち
に支援を続けることの大切さを、今回の講演で再認識す
ることができました。(佐々木 千種)

第4分科会: 講演会 / シンポジウム

大切な人の“いとなみ”を支える実践

近年は、「意思決定支援」に関するガイドラインができたり、障
がい者の権利を守る制度が整ってきました。しかし、
支援者が良かれと思っても、ご本人はそう思わないことも
多いとおっしゃっていました。強度行動障害のある方の入
所施設では、問題行動の原因をよく観察して、解決してい
くと、利用者さんも落ち着いていったとおっしゃっていました。

私も息子をよく観察して、些細な要求にも応えて、より良
く過ごしたいと思えます。(齊藤 緑)

本人大会 日本工学院専門学校(蒲田キャンパス)

13:00 ~ 16:00

第1分科会

仲間づくり

はじめの一歩、ふみだそう!

第2分科会

私たちのリアル

楽しいこと、困ったこと、話し合おう!

第3分科会

親・兄弟姉妹

私たちの未来～家族も一緒に考えよう～

第4分科会

アクティビティ

みんなの元気を分かち合おう!

第5分科会

観光(バスツアー)

東京スカイツリーと上野動物園の旅

第3分科会: シンポジウム

私たちの未来～家族も一緒に考えよう～

講師の渡部伸氏から自立に向けて利用できる制度や
事業についての説明があり、相談することで地域の人とつ
ながる、本人の生活が豊かになる、親が持っている情報は
兄弟姉妹にも伝える大切さ等を学びました。高齢になる
と家族も近くに居ることが難しいので、本人にとって信用で
きる支援者の存在は必要だと感じました。特別支援学校
でも兄弟姉妹の気持ちなどを話せる場を増やしたいとの案
も出て、私にとっては親以外の立場から話を聞く良い機会
になりました。(安川 みさ)



受付開始 8:00

手をつなぐ母の歌斉唱 9:45

記念式典 10:00 ~ 10:50

開式の辞
大会会長 挨拶
表彰状・感謝状贈呈

おことば

内閣府特命担当大臣 祝辞
法務大臣 祝辞
文部科学大臣 祝辞
厚生労働大臣 祝辞
東京都知事 祝辞
東京都議会議長 祝辞
育成会大会宣言決議
本人大会宣言決議
閉式の辞



大会記事



NEWS 動画

休憩

記念講演：対談 11:10

「ともに生きる社会をじんわりと語り合う」
映画監督 和島 香太郎氏 × 野澤 和弘氏

中央情勢報告 12:35

次回開催地挨拶 (神戸市)

閉会の辞

司会 社会福祉士
元 NHK アナウンサー
内多 勝康氏



noteで
「全国大会東京大会 ご報告」
発信中



ポッドキャスト
Podcast で、音声番組
『マリコとときどきモモコの部屋』
(東京都手をつなぐ親の会/育成会)
の配信を始めました!

Podcast ▶

記念式典 佳子内親王ご臨席

おことば 「知的障がいに対する理解がさらに広がり、一人ひとりが大切にされ、すべての人が安心してくらすことができる社会になることを願っています」 (抜粋)



大きな梅の木に見守られ、母と息子は今日も生きる。ゆっくりと丁寧に。人と人とのつながり、共に生きることの喜びを描く。

出演：
加賀まりこ、塚地武雅
◀ DVD



映画監督
和島 香太郎氏

植草学園大学副学長・教授
野澤 和弘氏

記念講演：対談

「ともに生きる社会をじんわりと語り合う」

映画「梅切らぬバカ」制作現場のエピソードや、ご自身のご病気についても、柔らかな口調で語られる和島監督。障がいのあるお子さんの父として、また元記者として数々の取材を重ねてきた野澤氏が、映画の感想や実体験、育成会の活動を交えながらの対談。家族や地域、福祉のあり方をじんわりと考える時間となり、共感と気づきが深まりました。面倒さも含めて「ともに生きる」ことの意味を見つめ直す、温かくも考えさせられる講演でした。(林 多恵)

編集後記

14年ぶりの東京開催となった全国大会は2日間にわたり行われ、約2,000人が参加しました。大会で得た気づきをそれぞれの地域で生かしながら、「ともに生きる社会」の実現に一歩ずつ近づいていければと思います。(道井 美樹)

